



# 緊迫する

# 世界



川上高司

★★★5

施設などを提供し、イランから空輸される物資や人員はダマスカス（シリア）から陸路でベイルート（レバノン）のヒズボラに供給されていた。

求め、プーチン氏から「ロシアはイスラエルのシリアでの軍事行動を制限しない」との言質を得た。この成功で、選挙戦を有利に進めた。

イスラエルの真の攻撃目標は、レバノン南部に拠点を置いた。

イスラエルは、このルートで武器供給を絶つべく空爆していた。イランでのシリアの影響力が拡大するにつれ、イランの無人機施設や革命防衛隊も攻撃するようになってい

プーチン氏は、米軍撤退後のシリアを影響下に置いたため、シリア内戦終結に向けたワーキンググループを設置した。そこに、トルコやイランも参加させる。シリアのクルド人の問題も、プーチン氏がエルドアン氏とシリアのアサド大統領を仲介した。これらの勢力をロシアが牛耳ることで、米国に代わって「中東の盟主」になる戦略である。

ドナルド・トランプ米大統領は昨年12月、シリアに派遣している20000人の米兵の完全撤退を突然発表した。過激派組織「イスラム国」(IS)の掃討に成功したとの理由からだ。あとには米軍約2000人の小規模な治安維持部隊を残留させる方針だという。

これで、中東における勢力図が大きく変わる。

イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相は総選挙前の4日、モスクワに飛び、ウラジーミル・プーチン大統領と会談した。イスラ

エルはこれまで、シリアへの空爆を行っていたが、昨年9月のロシア戦闘機の撃墜で緊張が高まっていたのだ。

ネタニヤフ氏は関係修復と、シリア攻撃への理解を

## 米国が中東から撤退 ロシアが牛耳る構図

イスラエル派過激派組織「ヒズボラ」である。シリアは、ヒズボラに後方補給拠点や訓練

一方、プーチン氏の腹の底はどうか。ロシアはイランとは同盟関係といえるほど親密である。



プーチン大統領は「中東の盟主」を狙っている（ロイター）

プーチン氏の狙いは、米軍を一刻も早くシリアから追い出したい。そこでトランプ大統領と盟友関係にあるネタニヤフ氏との関係改善を行った。ロイター通信によると、米軍のシリアからの撤退は、トランプ氏とトルコのエルドアン大統領との電話協議の後に明らかになったという。

そこで、以前から要請があったイスラエルとエジプトの国境付近にあるシナイ半島に展開する多国籍軍監視団(MFO)へ自衛官2人を派遣し、イスラエルを援助すると同時に情報収集の要とする高等戦術に出た。さすが安倍政権である。

―おわり  
拓殖大学海外事情研究所 所長